



ピカピカのポンプ付き積載車が第1分団2部(鳥居)に貸与されました

「消防自動車を更新」

普代村消防団(道合政喜団長)にこのほど、新しい小型動力ポンプ付積載車が村から貸与されました。購入価格は6,300,000円です。この積載車は同団第1分団2部(鳥居)に配備されました。同分団の小型ポンプ積載車は昭和55年に貸与したもので装備などの老朽化が著しく、更新が待たれていました。

深渡宏村長は、「今回で、全分団に消防自動車を更新することができましたが、分団によっては老朽化が進んでいるところもあります。課題を乗り越え、村民一丸となって村を守っていきたい」とあいさつ。道合団長は「小型ポンプ車を貸与いただきました。有事の際には、生命、財産を守るため今まで以上に力を発揮できます」と話していました。

健康講演会は久慈医学談話会主催で村保健センターを会場に約五十人が参加して行われました。講演会は「放射線を受けるあなたのために」と、題して県立久慈病院鎌田智診療放射線科技師が、「早く見つけて、早く治そう前立腺癌」は、同病院の金子卓司ひ尿器科長が、それぞれスライドを使って詳しく説明しながら講演しました(写真)。

健康講演会で前立腺がん学ぶ なんとたつて早期発見が一番

鎌田放射線科技師は、エックス線の仕組みや放射線検査



にはどのようなものがあるかなど優しく説明。金子ひ尿器科長が、「前立腺がんは、祖父母、兄弟などががんになっている場合、「がん」になる危険度はかなり高い。対策として、ひ尿器科で診察を受けること、食事は和食が一番」と結びました。

中央区の松葉虎雄さん(七〇)は、「この病気は冷えが良くないと聞いています。予防などについて詳しく聞くことができ、とてもよい講演でした」と感激していました。

グループホームとりの見学会と講演会 ゆとりと安心感で暮らす

十一月八日、痴呆性高齢者グループホームとりのい(野崎貞信施設長)の見学会と講演会は、久慈管内から約百五十人が参加して、久慈地方振興局保健福祉環境部主催で行われました。

講演会は、一関市で「つくしの里」と「ゆいとり」の二つのグループホームを経営する特別養護老人ホーム明生園の熊谷茂園長が「グループホームに普通の暮らしがある」

ここなら痴呆になってもいいかな」と題して、特別養護老人ホームうねとり荘を会場に行われました。

久慈管内で初めて開設される痴呆性高齢者グループホームとりのい。十二月一日の開所に先立ち行われた講演会と施設見学会には、介護に携わっている職員やこれから職業として、お年寄りをお世話する方々などが参加。講演会では、メモをとるなどして一心に聴



き入り、最後に施設を見学していました。

同ホームとりのいは十二月一日、開所式と同時に九人の入所者を迎えて共同生活が始まります。